2002918

絵本学会 NEWS No.16

発行：絵本学会
発行日：2002年9月18日
編集：絵本学会事務局・広報委員会
事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1－736
武蔵野美術大学芸術文化学科今井研究室内
FAX：042-342-5191
http://ehongaku.musabi.ac.jp

2002年度第5回絵本学会大会報告
写真でみる第5回絵本学会大会
絵本学会2002年度総会報告
伝言板
インフォメーション－絵本関係展覧会・イベント
事務局からのお知らせ

絵本学会

2002年度第5回絵本学会大会報告

第5回絵本学会大会実行委員会　香曽我部秀幸

第5回絵本学会大会が、去る6月29日(土)と30日(日)の二日間、神戸ファッション美術館において開催されました。

会場となった神戸ファッション美術館は、1997年、世界でも珍しいファッションを専門に扱う美術館として神戸市の人工島六甲アイランドに開設された真新しい複合情報文化施設です。今回の大会は、日ごろはファッションショウなどが開かれる「オルビスホール」の斬新な舞台空間をメイン会場に、「ギャラリー」や「セミナー室」等を使って、絵本作品の展示、初日の記念鼎談、総会、懇親会、二日目の研究発表、作品発表、ラウンドテーブル、ワークショップ、ゲスト作家の絵本頒布およびサイン会など、多彩なプログラムが組まれ、有料参加者数399名、二日間でのべ600名を上回る方々の参加が得られました。

初日はまず、記念鼎談が「"絵本はコラボレーションの場。"－いろ・かたち・おと・ことば－」と題し、現代アーティスト・絵本作家の元永定正・中辻悦子夫妻、詩人・絵本作家の谷川俊太郎氏の三人をゲストに迎えて行われました。続いて2002年度総会が開かれた後、会場をホテルプラザ神戸に移して懇親会が開かれました。二日目午前の研究発表では12組14名、作品発表では11名の発表があり、同日午後には、R1［絵本表現研究－絵本とマンガの間］、R2［絵本作家研究－太田大八の絵本］、R3［絵本受容研究－絵本とコミュニケーション］の三つのラウンドテーブルが開かれました。さらに続けてワークショップとして、W1「絵本制作公開講座」が小野明氏(デザイナー・絵本編集者)・土井章史氏(絵本編集者・トムズボックス主宰)を特別講師に迎えて開かれ、同時にW2「点訳絵本を作ってみよう！」が岩田美津子氏とふれあい文庫のスタッフの方々によって行われました。

ギャラリーでは、二日間を通して、「作品発表」応募作品11点のほか、岩田美津子氏とJBBY提供による多種の「バリアフリー絵本」(点訳絵本・触る絵本・布の絵本など)、および京都造形芸術大学情報デザインコース・梅花女子大学児童文学科絵本制作講座の学生たちの絵本作品計25冊が展示され、参加者の興味を惹きました。カウントはされませんでしたが、大会には参加されていない一般の観客もかなりの数に上ったようです。

1997年の学会設立以来はや6年、第5回目を数えることとなった今回の大会では、テーマに"絵本はコラボレーションの場。"が掲げられました。三宅会長がプログラムの序言で述べられているように、当学会では、絵本を重要なコミュニケーション・アートの一種と位置付け、会員各自がそれぞれに異なった観点から多様な意識で絵本を論じ合い、その表現と受容の世界を広げる場として、毎年のこの大会があることは、会員共通の認識になっていると思われます。その色々な意味でのコラボレーションのための仕掛けが、二日間にわたって用意されました。

鼎談

参加者の関心を最も惹いたのは、初日の元永定正・中辻悦子・谷川俊太郎三氏による「鼎談」でした。現代アートおよび現代詩という独自の創作表現フィールドを持ちながら、絵本制作にも積極的に取り組んで来られた三氏の存在感に圧倒されつつも、松本猛氏（ちひろ美術館）の的確な司会も相俟って、話題は実に奥深く多彩なものとなりました。

第1部では、それぞれの専門領域の仕事を映像で紹介しつつ、その絵本作品の成立過程の秘密が明らかにされました。

具体美術運動で活躍されていた元永さんと、独自に立体やオブジェ制作を続けておられた中辻さん夫妻は、1966年ニューヨーク滞在中に、同じアパートメントに住んでいた谷川さんと親交を結び、帰国後の77年、三人の初のコラボレーションで絵本『もこもこもこ』を発表、今なお子どもたちに圧倒的人気を誇るロングセラーとなっています。この作品は、帰国後、まずことばを創出した谷川さんが元永さんに「絵本を作ろう」ともちかけ、元永さんの絵を真似たラフまで描いて送ってきたところから始まりました。ニューヨーク滞在中、元永さんの描いた絵に、谷川さんが気ままに題名をつけていたことがその出

発点だったといいます。他に例を見ない、音と色と形が織り成す抽象表現によるこの稀有な絵本は、三人のニューヨーク時代の豊かな遊び心の中から生み出されてきたと言えます。
中辻さんは99年、谷川さんとの共作『よるのようちえん』で、ブラスチラヴァ国際絵本原画展グランプリを受賞されました。誰もいない夜の幼稚園のモノクロ写真に、お化けのような人物像をコラージュした不思議な作品ですが、その視覚表現が欧州の審査員に絶賛されたといいます。これは、絵はほとんど出来上がっていたものの、物語が生み出せず長い間頓挫していた作品に、谷川さんにことばをつけてもらったところ、初めてキャラクターが生き生きと動き出し、物語性を持つ楽しい絵本に仕上がったと中辻さんは語ります。
谷川さんは、レオーニの『あおくんときいろちゃん』の表現に触発されて絵本に手を染め始めたこと。映像と言葉の結びつきに強く関心を持つ中から、様々な形の絵本を生み出してきたこと。「詩と違って、絵本のテキストは、構図やカメラアングル・編集等の要素が映画の台本に似ており、コンセプトを確かなものにすることが大切」で、「絵本のことばは常に映像と関連させて考える。構図も明確なイメージを持って、画家と細かく話し合う。」しかし絵本では「当然絵がメインであり、言葉は可能な限り最小限であるべき」と語ります。
休憩後の第2部では、会場からの要望で『もこもこもこ』を元永さんに、そして『よるのようちえん』を谷川さんに読んでいただき、会場は多いに盛り上がりました。味わい深い読み語りから、やはり作品には作家の精神そのものが宿っていることが実感されました。
このほかニューヨーク時代の奇行や、言葉と絵の意識の違い、絵巻における時間と空間の表現、芸術家夫婦の長続きの秘訣、アホと知性の関係など、三人の本来のフィ--ルドを巡って、話題は四方八方へ跳びましたが、すべてを記すことは出来ません。個性に満ちた三人の迸るようなエネルギーに魅了された二時間半であったと言えましょう。ただ異分野の作家たちの熱い想いのこもった共同作業が、ユニークな絵本を生み出す原動力になることを感じた方も多くいらっしゃると思います。さらに三人が共に、絵本づくりに際して「子どもへのメッセージ」はまったく意識していないと語ったことはきわめて印象的でした。

作品発表と絵本制作公開講座

今回特筆すべきは、初めての試みとして、作品制作発表のプログラムと作品制作をめぐめぐるワークショップが企画されたことです。この催しは、作り手がその未発表の作品を公開して自らがその作品について語り、参加者と論議し合い、さらに大勢の参加者が見守る中で、プロの編集者が作品出版の実現に向けてその表現を熟成させるための手がかりを与えるという二重の構成が仕組まれました。作品発表は昨年の第4回大会で試みに行われたのですが、今回から正規のプログラムとして定着させるべく作品を募ったところ、11名の会員からの応募がありました。

ギャラリーで、二日間を通して応募作品11点の製本された絵本が観客の手に触れられる形で置かれ、壁面には約130場面の原画のカラーコピーが額装されて展示されました。参加者一人一人が初日からそれらの作品を手に取りじっくりと鑑賞した上で、作品発表とワークショップに臨みました。[作品発表] は、第二日午前にギャラリーで展示作品に囲まれながら行われ、発表者が自作を掲げながら制作に込めた熱い思いを懸命に伝えようとします。それに対して参加者から、作品のテーマについて、あるいは表現方法、表現技術などについて、忌憚の無い意見が飛び交いました。それらが午後のワークショップ [絵本制作公開講座] につながります。ここでは編集者がプロの眼で1冊1冊を吟味・分析し、感想を述べ、作り手に新たなヒントを与えていきます。絵本作家養成を目的とした『あとさき塾』を主宰し、フリーの編集者として、多くの才能を発掘し、絵本市場に人気作家を送り出して来られた小野明氏と土井章史氏の穏やかながらも手厳しい発言は、確固とした美意識と、実践に裏打ちされた明確な絵本観によって、大いなる説得力を持ち、発表者にとっても聴衆にとっても、絵本とは何かを考える、きわめて刺激的な時間となりました。まさに絵本を取り巻く様々な人たちによるコラボレーションの場が出現したと言えましょう。ただ、あくまでも商業出版として成立するためにはという限定条件でお話しいただいたため、斬新な視覚表現、あるいは実験的な作風に対して、積極的な評価が見られなかったことは、絵本表現の可能性をより広く追求する立場の方からは、異論も出たのではないかと推測できます。

二日目午後の [ラウンドテーブル] は、三つの興味深いテーマが設定され、どのテーブルに参加すべきか思い悩まれた方も多くあったようです。それぞれのテーブルのコーディネータから報告が寄せられています。

ラウンド・テーブル1　絵本表現研究 [絵本とマンガの間]

話題提供者：佐々木マキ（絵本作家、マンガ家）、村上知彦（まんが評論家）

コーディネータ：笹本純（筑波大学）

元永定正・谷川俊太郎・中辻悦子三氏による「鼎談」

司会は、安曇野ちひろ美術館館長の松本猛氏が行った

絵本とマンガはともに、本を媒体とし、絵という表現手段で内容を伝えるという点で似ています。また、双方とも子どもを主な読者とするという点でも共通します。けれども両者は、多くの場面で違うものとして区別されます。書店や図書館での配架具合も違いますし、購入法や読み方など読者の受容スタイルも異なります。さかのぼって見れば、制作・出版・流通のあり方もかなり違います。また、色彩やコマ割の有無、造本の違いなど、表現形式上の違いをいうこともできます。そして何よりも、それぞれに対する社会的な意義づけ・価値づけにおいて大きな差異があります。すなわち、絵本が教育上の有益なツールとして公認され、高尚な芸術的文化的意義を持つとされるのに対し、マンガは、エネルギッシュな同時代性等に意義を認められつつも、卑俗なサブカルチュアとして軽んじられ、ときに害毒を発するものとして排斥されたりもするということです。

絵本とマンガの間に設けられたこのような区分けは絶対的なものではありません。特に価値が多様化した現代では、両者の境界は様々に揺れ動き、曖昧になっています。このＲＴは、絵本とマンガの境界に注目して、現代における両者の新しい関係やそれぞれの意義、働き等々について考えたいという企画でした。まんが評論家の村上知彦さんは、漫画家として知られた杉浦幸雄や清水崑らの手掛けた絵本を例に上げ、我が国においてもある時期までは絵本とマンガを分ける意識は強くはなく、両者は本来判然と区分できるものでないと語られました。

また一方で、当初マンガとして発表された『ぽのぽの』を作者いがらしみきおが自ら絵本化したものなどを例として、同じ題材でも、マンガの場合と絵本の場合とでは作者の表現意識が異なることを示されました。その違いは、絵や言葉や頁進行の扱いといった表現文法に関わることのみならず、出版流通のあり方や想定される読者の違いなど、多方面に渡る表現の枠組みの差に対応して現れるもので、一概には捉えにくいということでした。このような作品の成立条件の複雑化が現代の特徴だということです。

絵本作家とマンガ家を兼ねてお仕事をされてきた佐々木マキさんからは、作り手としての体験を踏まえたお話を頂きました。月刊漫画誌「ガロ」で主に青年読者を対象とする前衛的なマンガを発表されていた時代を経て、絵本としてのデビュー作品『やっぱりおおかみ』を出された時は、カラーの使用、原稿の再現性の良さなど、絵本の持つアートとしての表現可能性がおおきな魅力だったそうです。当時まだ邦訳のなかったセンダックの『In the Night Kitchin』を参考にしつつ、我が国初のコマ割を用いた絵本にチャレンジしたとのことでした。その他、印刷表現や造本の工夫の余地、内容のシンプル化の必要、子どもという読者の不可思議さ、等、絵本には表現者を引き付ける多様な魅力があるということです。もちろんマンガにはマンガなりの力があり、両者は時に応じて使い分けられるべきだというお話でした。

分科会の様子

会場には多数の参加者があって、色々な意見や質問が発せられましたが、特に、絵本とマンガはどのような点で違うのかという問題に関心が集中したようです。この点については、明確な答えが示せませんでしたが、それは両者の間に境界線を引くことが重要なのではなく、マンガやその他の表現領域を含んだ広がりの中で絵本を捉え直すことこそが、今日求められているのではないかという発想なのです。限られた時間内では十分に論じ尽くせませんでしたが、問題の端緒を確認しあうことは出来たかと考えます。（文責・笹本純）

ラウンド・テーブル２　絵本作家研究［太田大八の絵本］

話題提供者：太田大八（絵本作家）、西巻茅子（絵本作家）

コーディネータ：澤田精一（福音館書店）

絵本作家・太田大八さんといえば、まずその生い立ちに目がいきます。ロシア革命の翌年（1918年）に大阪で出生されます。お父さんは貿易商でしたので、ウラジオストクで3歳ごろから数年の子供時代を過ごされますが、政情不安から帰国されて長崎に移ります。しかしほどなく東京がその生活の場となりますが、はじめはなじめない学校生活で、登校回避の日々もあったそうです。ですがまもなく東京の生活にも慣れ、早熟な学生となり、はやくから外国のジャズ、マンガ、絵画などに親しまれました。

戦時下にはいってから、学徒兵になるより、策略をめぐらして1年早く卒業し、軍属の道を選びますが、再度人生の選択を内地での戦争組立建築の道に選びなおします。何度も空襲にあいながら、ある日、広島で1泊することになるのですが、こんなに空襲が激しい時になんにも空襲を受けていない広島市を見て、広島泊を止め、別な町に泊まります。翌朝、原爆投下。太田さんは原爆が投下された直後の広島市を通過して、惨状を見ることになります。そこで被爆もされました。

平和がもどると、まず、経済が発達すれば広告が必要になるという読みで、総合デザイン社「スタヂオ・トーキョー」を設立します。その広告第１号は、自社の広告でした。３人の女性に、当時としては驚くようなコスチュームでプラカードを持たせて、銀座を歩かせます。しかも新聞社に連絡して、その記事を書かせようとします。しかしそうした創意工夫も、広告社が成り立つには時代は時期尚早で、ほどなく会社は人の手にわたることになります。

それから、いよいよ単行本、雑誌などへの挿絵、絵本の制作にむかうことになります。

絵を描いてその原稿料で生活するわけですが、同時に著作権の確立もめざしました。当時は挿絵に印税が支払われる時代ではありませんでした。その運動がやがて童美連（児童出版美術家連盟）の発足となり、90年代に入っては絵本ジャーナル誌「PeeBoo」の創刊、ついで絵本学会の設立とつながっていきます。

総じて、太田大八さんという作家は、さまざまな苦難の人生がありながらもいつも前向きに、人生を肯定的にとらえ、自分を生かすだけでなく、まわりの多くの人たちもいかせられるように生きてきた作家だと思います。普通、作家といえば自分の世界へと自身を追い込みがちなのですが、太田さんはそうではなく、そうしたことが広がっていくのです。それゆえ、さまざまな分野の人との繋がりも生まれてきます。以前「PeeBoo」で連載された自伝（まだ単行本になっていませ

ん)「紙とエンピツ」で、「人間もちつもたれつ」というのはそういう太田さんの生き方をいって感慨深いものがありました。(文責・澤田精一)

ラウンド・テーブル3　絵本受容研究〔絵本とコミュニケーション〕

話題提供者：村中李衣（作家・梅光女学院短大）岩田美津子（点訳絵本ふれあい文庫）

コーディネータ：佐々木宏子（鳴門教育大学）

まず最初に、企画の趣旨がコーディネータから述べられた。絵本は、従来から親子の間のコミュニケーションを深める文化財として広く定着している。しかし、近年はニューメディアの進出により、その重要性については必ずしも共通認識が得られなくなってきている。それでも、乳幼児の発達・成長と絵本の関わりについては、他のメディアに比べ、さまざまなコミュニケーションの具体的データがつみ重ねられてきている。

今回のラウンドテーブル3ではこのような伝統的な視点とは異なり、小児病棟や児童養護施設、それに老人保健施設などでターミナルケアとして絵本の読み合いを続けてこられた村中李衣さん、それに視覚障害者のための点訳絵本を広めつつ、視覚障害者が絵本に出会うことでどのようなコミニュケーションの可能性が広がるのかを、ご自身も視覚障害者である岩田美津子さんのお二人に問題提起をしていただいた。

村中さんは、絵本のもつ「ものがたり」の時間と、読み手と聞き手が日常の中で育てている「ものがたり」の時間は、どのように共鳴するのかをいくつかの具体例と共に語られた。人は、一冊の絵本を読んでいると、その中にその人独自の「別の扉」が見えてくる。それは、絵本のテキストの延長としてのエピソード的な会話とか、あるいは文脈にそったかけ声や歌をうたうというようなことではない。ある意味では、その読み手の意思や「気づき」を越えたところから生まれてくるものである。絵本の何とコミニュケーションするのかと問われれば、それは主題ではなく「扉」を開けて見えてきたものとの対話である。村中さんの御夫君は土建業を営んでおられるが、谷川俊太郎と和田誠の『あな』(福音館書店)を読んでおられたとき、「もうそろそろ水が出てくるんだがなあ」と、お国言葉独特のイントネーションでつぶやかれた時のエピソードを披露され、爆笑を誘った。また、ターミナルケアの老人は、自らの終末に向けて、絵本を読むことで、物語の中にエネルギーを捨ててゆくことを印象深く語られた。

岩田さんは、20年間の点訳絵本の経験から、いかに点訳絵本が視覚障害者と晴眼者、視覚障害者同士のコミニュケーションを創り出したかを、親が晴眼者で子どもが視覚障害者の場合、またその逆の場合などのさまざまな具体例をあげつつ語ってくださった。

例えば、視覚障害者にとっての絵を「見る」「感じる」とは、どのようなイメージかという村中さんの質問に対しては、実際に点訳絵本の『しろくまちゃんのほっとけーき』(わかやまけん・こぐま社)を読んで頂いた。「ぽたあん／どろどろ／ぴちぴち／ぷつぷつ」と、声に出しつつ「そろそろ黄色くなりますね」と語られた。なぜ、「文章(言葉)だけではダメなのか？」という質問へは、言葉だけの物語はただそのテキストを追うことで終わるが、そこに絵があると想像する部分が広がり豊な読みになると答えられた。このことは、目の見えない人にとっても絵の存在が認識の空間を広げるものであることを、体験をもとに語られ、絵本の絵についての根元的な意味を指摘してくださった。(文責・佐々木宏子)

今後の課題

以上の催し以外にも、W2「点訳絵本を作ってみよう！」の様子、ギャラリーのバリアフリー絵本やユニークな学生作品、大勢の方が参加され盛況だった懇親会などについて、記さねばならないことが多く残っていますが、紙幅が尽きました。

今回の大会は、事前の積極的な広報活動、マスコミ対策、公的機関の後援、そして(これが最も効果を発揮したと思われる)参加費の事前払込等の対策が功を奏して、今までに無い多数の方々の参加が得られました。とくに、非会員の有料参加者実数が260名を超えたことは、絵本学会の存在を関西地区の方々に知っていただくよき機会となったと言えるでしょう。会員の参加者実数も130名を超えたことは特筆すべきことです。

しかし、参加者数が飛躍的に伸びたとは言っても、手放しで『大成功』と言えるわけではありません。とくに憂うべきは［研究発表］の低調です。中には注目すべき研究も含まれているものの、総じて高いレベルにあるとは言えず、質疑応答も決して活発なものではありませんでした。何より一般参加者から寄せられたアンケートに非常に厳しいものがありましたので、少しご紹介しましょう。

・参加した研究発表は、あまりおもしろくなかったです。レベル的に低い分野ではと、思うものが何件かあった。もっと洗練された研究発表の魅力的なものがほしい。残念です。(非会員)

・研究発表にはがっかりさせられたものもありました。発表内容の審査をきちんとして頂きたい。(非会員)

・研究発表については、題からイメージする内容と発表内容が違うものが多く、発表するほどの内容に思えないものもあったりで、期待したほどのことはなかった。発表内容は事前に事務局の方がチェックされて、ある程度のレベルは維持して頂きたいと思います。(非会員)

・中身が大変薄く、がっかり。テーマ＆メッセージをもっときちんと書いてほしい。読書感想文を聴きにきたのではない。(非会員)

このように、研究発表に対して非会員から低い評価が与えられたことは、会員各自が深刻に受け止めなければならない、今後の重要な課題だと思われます。しかし、そのような苦言も裏を返せば、絵本学会に対する熱い期待ゆえと考えることも出来ます。次のようなご意見もまた見られました。

・絵本学会がこんなに盛んで、興味深く、楽しいもので、様々な方がいらっしゃる学会であることを知り、これからも勉強し、参加させていただきたいとおもいました。(非会員)

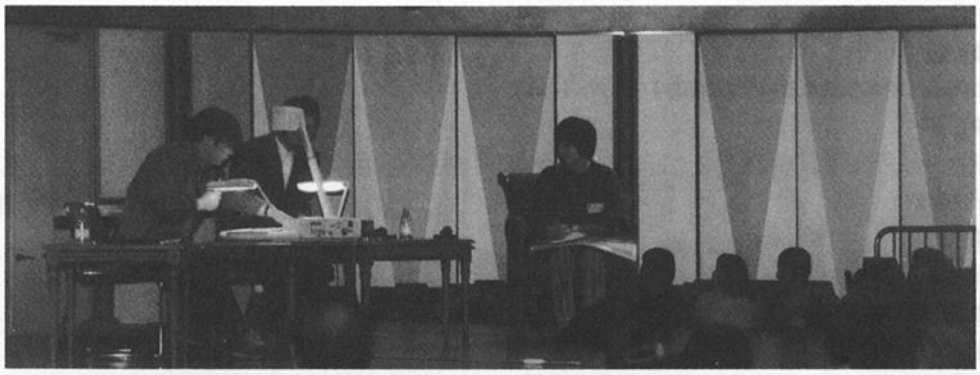
おざなりのアンケート記入ではなく、参加された多くの方々が、絵本学会に深く関心を抱かれ、真剣にその思いを書いてくださっています。この方々の期待にそむくことなく、絵本に対する様々な研究や創作を深化させていくことこそ、この学会に与えられた使命であると言えましょう。

おわりに

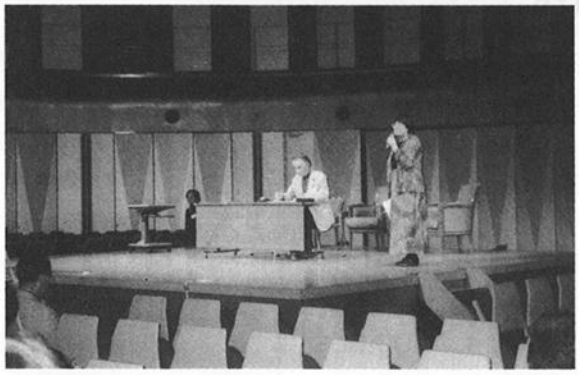
今回の大会の成功は、多数の参加者一人一人の大いなる熱意の賜物であることは言うまでもありません。それに加えて、会場の神戸ファッション美術館をはじめ、神戸市教育委員会、社団法人神戸市私立幼稚園連盟のご厚意も忘れることは出来ません。そして事前の準備から長期にわたって超人的な力を発揮してくださった実行委員の方々、参加費を払った上に無償で重要な仕事を引き受けていただいたボランティアの方々、朝早くから終了まで様々な作業をこなしてくれた学生スタッフ諸君の献身的な協力なしには、大会の実現はあり得なかったでしょう。最後になりましたが、すべての関係者に深く感謝の意を捧げたいと思います。

写真で見る
第５回絵本学会大会

パノラマサイズの３点
上：大会受付
中：分科会
下：ワークショップ



下部４点
左上：総会の様子
右上：懇親会
左下：絵本作品発表
右下：絵本作品発表会場



絵本学会2002年度総会報告

絵本学会2002年度総会は、2002年6月29日神戸ファッション美術館（兵庫県神戸市）で開催されました。2001年度活動報告ならびに2002年度活動計画が報告された後、以下の総会次第にしたがって審議が行われました。
総会の出席者数：46名、委任状提出者数：112名

絵本学会第4回定期総会次第
1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3.2001年度活動報告
●第4回絵本学会大会
5月4日、5月5日、フェリス女学院大学
テーマ：「絵本とおとな・絵本とこども」
●理事会・運営委員会
4月21日 運営委員会
5月4日 理事会・運営委員会
7月29日 運営委員会
9月22日 運営委員会
11月14日　運営委員会
1月12日 理事会・運営委員会
●広報
広報紙『絵本学会ニュース』の発行　4月、8月、1月
●企画
絵本フォーラム2001「絵本とことば」の開催　8月25日　世田谷文学館
●出版
絵本学会研究紀要『絵本学』第4号の刊行
機関誌プレ創刊号『ブックエンド』の発行
4.2001年度会計・会計監査報告
事務局（今井）より2001年度決算について説明。千田篤監事より監査結果を報告、原案どおり承認。
5.2002年度活動計画に関する件
2002年度活動計画
●第5回絵本学会大会
6月29日、6月30日、神戸ファッション美術館（兵庫県神戸市）
テーマ：絵本はコラボレーションの場
●広報
広報紙『絵本学会ニュース』の発行　5月、8月、12月
●企画
「絵本フォーラム2002」の開催
　絵本学会5周年記念連続講座を予定　会場：世田谷文学館
●研究
絵本学会例会の開催
研究活動への支援
　研究会活動を支援するために、年間3件、1件当たり3万円を補助することが提案され承認された。
　絵本論解題、年1回ニュースへの掲載
　絵本学会独自のデータベースづくり
　絵本制作への支援
●出版
絵本学会研究紀要『絵本学』第5号の刊行
機関誌『ブックエンド』の発行
●分科会活動
地域活動、分科会活動の推進
●その他
会員名簿の発行
6.2002年度予算案に関する件
事務局（今井）より2002年度予算について説明。原案どおり承認。

7. その他質疑応答
8. 閉会の辞

2001年度 決算書

2001年4月1日～2002年3月31日　　絵本学会

[収入]

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会費収入	3,136,000	3,338,000	202,000	賛助会員16口
法人等会費	280,000	320,000	40,000	正会員325名
個人会費	2,856,000	3,018,000	162,000	準会員7名
利息収入	500	73	△427	内前年度、次年度分390,000
参加費収入	280,000	327,000	47,000	
大会参加費	200,000	287,000	87,000	
フォーラム参加費	80,000	40,000	△40,000	
積立金組み入れ	1,000,000	1,000,000	0	
その他の収入	100,000	96,360	△3,640	入会金、紀要販売など
前年度繰越金	254,506	254,506	0	
合計	4,771,006	5,015,939	244,933	

[支出]

項目	予算額	決算額	増減	摘要
運営費支出	350,000	519,931	△169,931	
総会・大会費	200,000	369,931	△169,931	別途会計
大会運営補助費	150,000	150,000	0	
活動費支出	200,000	0	200,000	
専門委員会活動費	150,000	0	150,000	
その他活動費	50,000	0	50,000	
旅費・交通費	600,000	368,580	231,420	委員出張・講師交通費
謝金支出	200,000	160,000	40,000	
講師謝礼	100,000	60,000	40,000	
論文集等編集・制作費	100,000	100,000	0	
機関誌刊行費	1,000,000	800,000	200,000	別途会計
印刷費支出	800,000	798,630	1,370	
絵本学会ニュース	350,000	307,650	42,350	
研究紀要	300,000	197,925	102,075	
その他	150,000	293,055	△143,055	絵本学会封筒等
消耗品費支出	80,000	13,923	66,077	事務消耗品費
通信費支出	700,000	365,930	334,070	
報酬支出	420,000	295,000	125,000	
事務局報酬	420,000	295,000	125,000	事務局1名、臨時1名
会議費	30,000	0	30,000	
雑費	50,000	7,770	42,230	銀行振込および引出手数料等
予備費	100,000	0	100,000	
機関誌刊行積立金	200,000	1,000,000	△800,000	
次年度繰越金	41,006	686,175	△645,169	
合計	4,771,006	5,015,939	△244,933	

（単位：円）

資産残高明細　　2002年3月31日現在

現金　25,931　三和銀行国分寺支店　580,244　たかの台駅前郵便局1,080,000　　内積立金　1,200,000円

2002年度 予算書

2002年4月1日～2003年3月31日　　絵本学会

[収入]

項目	前年度予算額	予算額	摘要
会費収入	3,136,000	3,048,000	賛助会員 15口× 20,000円
法人等会費	280,000	300,000	正会員 340名× 8,000円
個人会費	2,856,000	2,748,000	準会員 7名× 4,000円
利息収入	500	100	
貯金利息	500	100	
参加費収入	280,000	350,000	
大会参加費	200,000	300,000	
フォーラム等参加費	80,000	50,000	
積立金組み入れ	1,000,000	1,400,000	
その他収入(入会金等)	100,000	100,000	
前年度繰越金	254,506	686,175	
合計	4,771,006	5,584,275	

[支出]

項目	前年度決算額	予算額	摘要
運営費支出	519,931	500,000	
総会・大会費	369,931	250,000	印刷費・通信費など含む
大会運営補助費	150,000	250,000	会場使用料を含む
活動費支出	0	200,000	
専門委員会活動費	0	110,000	
その他活動費	0	90,000	
旅費・交通費	368,580	400,000	委員出張・講師交通費
謝金支出	160,000	200,000	
講師謝礼	60,000	100,000	
論文集編集・制作費	100,000	100,000	
機関誌刊行費支出	800,000	1,000,000	
印刷費支出	798,630	870,000	
絵本学会ニュース	307,650	350,000	
研究紀要	197,925	250,000	
会員名簿作成費	0	70,000	
その他	293,055	200,000	
消耗品費支出	13,923	50,000	事務消耗品費
通信費支出	365,930	430,000	絵本学会ニュース、研究紀要等発送費、事務連絡費
報酬支出	295,000	350,000	
事務局報酬	295,000	350,000	事務局２名
会議費	0	50,000	
雑費	7,770	30,000	
予備費	0	50,000	
機関誌刊行積立金	1,000,000	1,400,000	
次年度繰越金	486,175	54,275	
合計	5,015,939	5,584,275	(単位：円)

伝言板

「絵本表現研究会」のご案内

この度、私たちは「絵本表現研究会（仮称）」を始めることにいたしました。つきましては、ご一緒にご参加を賜わりたく、ご案内申し上げます。

絵本に関わる研究的なアプローチは各所で様々に試みられている様ですが、関係者同士の交流の機会はまだまだ足りないと思われます。この研究会は、絵本に関心のある人が気軽に集まり、日頃の研究や活動について報告しあったり、情報交換をしたりする場として働くことを目指します。
内容については特に一定の主題を用意しません。特定テーマを設けて計画的に成果を求めていくプロジェクト型の研究会ではなく、色々な研究の芽が育っていく苗床となることを目的とするからです。ただ、おおまかな枠組みとして、絵本について多様な可能性を秘めた表現メディアとして捉えていく、広範な広がりの中で絵本を眺めていく、といった姿勢を共有できればと考えます。「絵本<表現>研究会」という名称には、そうした意図を込めています。
集まりのスタイルは、できるだけ大袈裟でなくという方針です。絵本を研究する会ですが、教室の授業の様な堅苦しいものでなく、文字どおりのラウンドテーブルとして誰もが討議に参加できる雰囲気や、面白くて且つためになるといった感覚を大事にします。当面 絵本学会の会員を中心に参加を呼び掛けますが、学会員でなくとも自由に参加できるものと考えています。

会の集まりは、おおよそ月一回、土曜の午後３～４時間くらいという日程で開催するつもりです。継続性が大切ですので、不定期でもできるだけ間があかないように催したいと考えます。
会場は、東京都内の学校の教室か公的施設などを借りる予定です。（できるだけ一定の場所と考えますが、都合で移ることがあります）
会費については、会場費の分担などの他は、現在のところ考えておりません。

以上の様な主旨でございますが、意をお汲み頂き、この研究会にご参加賜わります様お願い申し上げます。また、お知り合いで関心をお持ちいただける人がございましたらご紹介頂ければ幸いです。

第１回の集まりを2002年９月７日（土）に持ちました。
場所：日本デザイナー学院　本館703教室午後１：00～５：00。
今後ご参加頂ける場合には、次回以降のお知らせをいたしますので、下記宛ご連絡下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2002年８月
呼び掛け人：秋葉しおり（日本デザイナー学院）
今井良朗（武蔵野美術大学）
加持ゆか（グラフィックデザイナー）
笹本純（筑波大学）
中川素子（文教大学）

問合わせ先：笹本純
〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1　筑波大学芸術学系
tel.fax.: 0298-53-2846
mail：jsamt@geijutsu.tsukuba.ac.jp

「絵本と20世紀美術」

絵本研究は、絵本の世界だけで論じられることが多いようですが、現在の絵本は20世紀美術の動きからさまざまな影響を受けています。以前からそのことに興味をもっていた私が「絵本と20世紀美術」のタイトルで書きました。はじめに、モンタージュ理論、本全体の構成方法、絵の表現方法、本を形作る素材、色と形、テーマになりうるもの、文字の表現、おわりにの９つの項にわけて論じています。お読みいただければと思います。
「KATACHI　形の文化誌（9）」形の文化会編　工作舎　2002年８月発行です。
（尚、武蔵野美術大学の教科書「絵本　イラストレーション」にもほとんど同文がのせてありますので、それをお持ちの方は重なることをお断りしておきます）
中川素子

絵本 子ども 創造をめぐる　五味太郎ライブトーク in 文教

五味太郎さんを迎えてライブトークを開催いたします。どなたでも参加できますので、ふるってご参加ください。
日時：平成14年11月30日（土）
午後１時30分～３時
会場：文教大学　越谷キャンパス3301教室
入場料：無料
問合せ先：文教大学.美術研究室 TEL048-974-8811内線（583）

絵本関係展覧会・イベント information

●世田谷文学館
没後二十年　西脇順三郎　展
会期：平成14年９月28日（土）－11月４日（月・祝）
会 場：世田谷文学館　企画展示室
〒157－0062　世田谷区南烏山1-10-10
電話03－5374－9111
時間：10時－18時（入場は17時30分まで）
休館日：月曜日（10月14日、11月４日は開館、翌日休館）
観覧料
一般　500（400）円、大学・高校生　300（240）円、
中学・小学生　200（160）円、65歳以上　250（200）円、
（　）内は、20名以上の団体料金、障害者割引あり。
主 催：世田谷文学館
協 力：小千谷市立図書館、県立神奈川近代文学館、
（財）神奈川文学振興会、（財）日本近代文学館

『Ambarvalia』『旅人かへらず』『第三の神話』などの詩集によって、日

本の現代詩の世界に新たな流れを生み出した西脇順三郎（明治27～昭和57年）。西脇の詩は、英国留学時に影響を受けた《モダニズム》の革新的な作風で知られています。そして、その詩は、古代中世の英語英文学、芭蕉、老荘といった洋の東西を超えた、古典の知識に裏打ちされているのです。

詩人・西脇順三郎は、昭和37年に川端康成、谷崎潤一郎らとともにノーベル文学賞候補にのぼり、国際的に脚光をあびました。同時に彼は、優秀な人材を育てた教育者であり、さらに評論家、英文学者、画家としての側面を合わせ持っています。また、この偉大な詩人は、「私は戦前には旅人きどりで世田ヶ谷の麦畑を歩いていた」という回想のとおり、緑豊かな世田谷を散歩し、この地をうたった詩を多く遺しています。

本展では没後20年に際して、西脇順三郎の多岐にわたる業績を《詩―西脇順三郎記念室》《絵画―空想美術館》《旅―世田谷　奥の細道》《草花―空想植物園》などテーマに分け、成城の柳田國男訪問や多摩川の散歩のエピソードといった世田谷とのかかわりを交え、約200点の資料でご紹介します。

●ちひろ美術館

開館25周年を迎え、東京のちひろ美術館が生まれ変わりました。美術館が建つ練馬区下石神井は、いわさきちひろが最後の22年間を過ごし、絵を描きつづけた場所。新生「ちひろ美術館・東京」はちひろの生きた時間と美術館の25年を大切にしながら、公開スペース2倍の、全館バリアフリーの建物に変わりま

した。ちひろ愛用のソファに座って絵が観られる展示室、より忠実に復元されたアトリエやちひろの愛した草花が咲く「ちひろの庭」など、ちひろの思い出があふれる美術館です。

9月7日(土)－11月17日(日)
開館記念特別展　時をこえる視点　－いわさきちひろ・山本正道
11月20日(水)－2003年1月31日(金)
思い出を絵本に－ゆきのひのたんじょうび・わたしのえほん展
＜企画展＞コレガ長新太ナノヨ　展
休館日：月曜日（祝日は開館、翌日休館）
年末年始 12月28日～1月1日（1月2日から開館）
冬期休館2月1日～末日
展示替のための臨時休館あり
午前10時～午後5時
（GWと8月10日－20日の開館日は午後6時まで）
住所：〒177-0042　東京都練馬区下石神井4-7-2
TEL 03-3995-0612　　テレフォンガイド 03-3995-0820
交通：
＜西武新宿線＞上井草駅下車徒歩7分
<JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)>
上井草駅入口下車徒歩5分
＜西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)>
上井草駅入口下車徒歩5分
FAX 03-3995-0680
料金：
大人800円／中学・高校生500円／小学生300円
団体（20名以上）、学生証をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方とその介添の方、65歳以上は100円引、視覚障害のある方は半額となります。（なお、二重割引はいたしておりませんのでご了承ください。）

●安曇野ちひろ美術館

1）ちひろの仕事
7/19～9/24
ちひろの夏　水と光のハーモニー
9/27～11/30
ちひろが愛した映画と音楽
利用案内：〒399-8501　長野県北安曇郡松川村西原
TEL　0261-62-0772　テレホンガイド　0261-62-0777
FAX　0261-62-0774
http://www.chihiro.or.jp/
展示期間：3月1日～11月30日
開館期間：午前9時～午後5時　（GW・8月は午後6時まで）
休館日：水曜日(祝日は開館、翌日休館)
GW(2002年は4/27～5/6)・8月は無休
冬期休館 12月1日～2月末日／展示替えのための臨時休館あり
*2002年臨時休館日　5/16（木）・7/18（木）・9/26（木）
入館料：大人800円／中学・高校生500円／小学生300円
＊団体（20名以上）、学生証をお持ちの方、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方および介添えの方、は100円引きとなります。
＊視覚障害者の方は半額となります。

交通：
●電車の場合
○ＪＲ大糸線「信濃松川」駅よりタクシー3分・レンタサイクル7分・徒歩30分
ＪＲ大糸線「穂高」「信濃大町」駅よりいずれもタクシー15分
○新宿（中央東線）名古屋（中央西線）－松本－穂高－信濃松川－信濃大町（大糸線）
○車の場合
【高速バスの場合】新宿西口バスターミナルより　新宿⇔白馬線利用「安曇松川」停留所よりタクシー5分、レンタサイクル15分
【車の場合】長野自動車道「豊科」I.C.より大町・白馬方面に30分（国道147号線または北アルプスパノラマロード利用）
東京方面（中央自動車道）名古屋方面（中央自動車道）
－松本ＩＣ－（長野自動車道）－豊科ＩＣ－Ｒ147－安曇野ちひろ美術館
新潟（糸魚川）方面
－国道148号線・国道147号線－安曇野ちひろ美術館

●武井武雄の世界　イルフ童画館

2002年8月30日（金）～11月26日（火）
色彩と空間を繰るスロヴァキアの絵本作家
ドゥシャン・カーライ展
※最終日（11月26日）は午後5時閉館です。11月27日（水）は臨時休館日です。
2003年11月29日（金）～1月29日（水）
日本童画の父　川上四郎展

イルフ童画館　〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1
TEL 0266-24-3319(ミミズク)

FAX 0266-21-1620
http://www.city.okaya.nagano.jp/ilf/index.htm

入館料：（括弧内は団体割引き料金です）
一般　800円（600円）
中・高校生　400円（300円）
小学生　200円（150円）
※高校生とは、高等学校に準ずる学校の生徒を含みます。
※団体とは、総人数が10名以上をさします。
開館時間：
◎午前9：00～午後6：00
◎休館日 毎週木曜日（祝日の場合は開館）
年末年始休館日　12/31（火）・1/1（水）
展示替え臨時休館日　4/24（水）・11/27（水）

所在地図
JR中央線岡谷駅下車、徒歩5～7分 長野自動車道、岡谷I..Cから車で5～10分
＊車でお越しの方は市営駐車場（450台）をご利用ください。
市営駐車場ご利用のお客様・・・最初の3時間は無料です。

●軽井沢絵本の森美術館
夏の企画展
「歌と唄の絵本展―目をこらせば音楽がきこえる―」
第2展示館にて.

会期：2002年6月28日（金）～2002年10月14日（月）

うた(マザーグースなどの「わらべ唄」や歌曲）に絵がつけられた本、音のある風景や楽器が描かれた本、このように絵本の中には音楽が満ちあふれています。
今展では、音楽や歌が描かれた絵本とその原画を数多く、ご紹介いたします。
どのような音やメロディー、うたが絵から聞こえてくるでしょうか。
音楽と絵との素晴らしい出会いをどうぞお楽しみください。
さぁ、目をこらして、たくさんの絵本に描かれた音やうた、音楽につつまれてみましょう。

交通：
新幹線軽井沢駅、または、しなの鉄道中軽井沢駅よりタクシー約8分
上信越自動車道碓氷軽井沢ICより約15分、小諸ICより約25分
※駐車場200台（夏季以外無料）
次回：秋冬展
「ファッションがかたる絵本世界」―絵本原画に見る服の役割―
「欧米絵本のあゆみ展」・・・（第一展示館にて）
会期：2002年10月18日（金）～2003年1月13日（月）

軽井沢絵本の森美術館の展示に関するお問い合わせは
Phone.0267-48-3340　　Fax.0267-48-2006
curator@museen.org
http://www.museen.org/ehon/top.html

武井武雄の世界　イルフ童画館
色彩と空間を繰るスロヴァキアの絵本作家　ドゥシャン・カーライ展

事務局からのお知らせ

●研究助成について
絵本研究に関する研究会などグループの活動を助成します。助成金は、1件当たり30,000円とし、平成14年度は、3件について助成します。助成を希望するグループは、・研究テーマ・研究の概要・研究代表者および構成員・発表の形態を明記し、10月10日（必着）までに絵本学会事務局宛に郵送してください。結果は、10月12日運営委員会で審査の上お知らせします。

●第6回絵本学会大会（2003年度）開催のご案内
第6回絵本学会大会は、2003年6月14日(土)・15日(日)の2日間イルフ童画館（長野県岡谷市）で開催することが決まりました。大会プログラムなど詳細は、次号のニュースでお知らせいたします。

●絵本学会研究紀要『絵本学』第5号論文公募再度のお知らせ
絵本学会研究紀要『絵本学』第5号の論文を公募します。下記の要領でふるってご投稿ください。

『絵本学』投稿の要領
1）投稿資格：絵本学会会員および準会員
2）内容：絵本に関する研究論文、報告、論説、研究ノートで、未発表のもの。
3）掲載の採択：査読に基づき、編集委員会が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員会の外に査読委員を依頼する場合がある。採否

判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員会は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。
4）刊行までの日程：（1）投稿締め切りは9月30日（必着）とする。（2）掲載の採否は12月15日までに投稿者に通知する。（3）刊行は当年度内とする。
5）原稿送り先：絵本学会事務局
（郵送とする。Faxによる送付は不可）

『絵本学』執筆の要領
1）執筆は、別に定められた「執筆要領」に準拠すること。「執筆要領」は、個別に事務局に請求する。
2）使用言語：日本語とする。
3）原稿の分量：原則として一篇につき、研究論文は8000字から16000字まで、報告
　・論説・研究ノートは8000字以内。
4）原稿の体裁：必ず完成原稿であること。原則としてワープロによる横書きとする。表紙に原稿の種類（研究論文、報告、論説、研究ノート、）、題目（和文、英文）、執筆者名（ローマ字を併記）、所属機関、専門分野を明記する。
5）提出物：（1）プリント原稿3部（図版も含む。コピー可）（2）原稿を入力したフロッピーディスク（データは、原則としてWindowsまたはMacintoshのテキストファイルとする）（3）図版原稿（使用する場合）はデジタル化せず、写真等を提出。
6）図版の扱い：モノクロを原則とする。カラー図版の場合、経費は投稿者の自己負担とする。編集・印刷の都合で、図版は各論の末尾部に配置する。本文中への挿入はできない。使用する図版の数は特に限定しないが、本誌4頁分以内に納められるものであること。
7）校正：著者校正は1回。文字変換ミスの修正など最低限の訂正のみとする。
8）抜刷等：執筆者には、抜刷30部と、掲載誌5部を無料進呈する。

●理事会・運営委員会
5月19日　運営委員会　於：日本女子大学会議室
議題
・平成13年度会計報告について
・平成14年度予算案について
　その他の活動費として年間3件までの研究会を公募し、助成金として1件30,000円を補助する案が出された。
・平成14年度の活動について
・第5回絵本学会大会の進行について
・平成14年度総会の議案について
・研究紀要の進捗状況について
・機関誌の刊行について
・会員名簿の発行について
・企画委員会からの提案
　1）フォーラムについて
　2）5周年記念事業について
　3）講師登録制について
・第6回大会の会場について
・その他
6月29日　理事会　於：神戸ファッション美術館
・平成13年度会計報告
・平成14年度予算案について
・平成14年度の活動について
・学術団体登録について
・次回大会開催地について
・学生作品の展示について
・専門委員会人事の流動性について
7月30日　運営委員会　於：日本女子大学会議室
・第5会大会について
　参加者数、会計報告など
　鼎談、分科会の総括
　研究発表の在り方について
　作品発表の今後の課題について
・次回大会会場について
・その他